

急変時シミュレーショントレーニング

当院は、三次救急センターを備えた災害拠点病院であり、重症度の高い患者様や急変リスクの高い患者様に対してもリハビリテーションを提供しています。十分にリスク管理を行った上でリハビリテーションを実施していますが、急変リスクは「**0(ゼロ)**」にはできません。そのため、リハビリテーション時で生じる急変場面を想定した**急変時対応(BLS)**を身につけておくことが必要であり、リハビリテーション部門で取り組んでいる急変時対応のシミュレーショントレーニングを紹介します。

BLSとは、Basic Life Supportの略称で、心肺停止または呼吸停止に対する一次救命処置のこと。

■実際の急変時は...



とっさ
急変時は咄嗟に動く必要があり、頭で理解していても、すぐに行動に移せるように準備しておく必要があります。

実際の現場を想定した**シミュレーション形式**を採用

実際のBLS練習の風景

ACLS、ICLSコース受講者を中心として全職員がBLS練習を実施

応援の要請
対象者の移動



BLS開始



応援の到着
物品の使用



リハビリテーション室は、自転車や階段、個室など多様な環境で急変する可能性があり、それらの場面を想定して応援要請の方法や物品の配置などを把握し、すぐさま**人**と**物**を招集できるように練習しておくことが重要です。

■まとめ

- ・ BLSトレーニングにシミュレーション形式を採用
- ・ 急変時にとる行動を明瞭化し、咄嗟の場面に備えている
- ・ ACLSへの移行を想定して対象者の移動場所を選択するなど蘇生における一連の流れを考慮したBLSの実施を目指している